

人やものとのかかわり方を広げ、深める「自分タイム」

—異学年のかかわりを新たな視点として—

森本泰史・松浦武人

1 はじめに

新学習指導要領完全実施まで、残すところ、わずか一年となった。「総合的な学習」に関しては、自校カリキュラムの開発が求められており、全国の多くの学校では、そのカリキュラム開発が重大な課題となっている。

本校では、総合的な学習の一領域として、「自分タイム」領域を設定している。「自分タイム」では、子ども一人一人が自らの興味・関心をもとに学習課題を設定し、ゆとりと見通しをもってその課題を追究していく。このような主体的な追究活動を積み重ねることにより、子どもたちが学習の仕方を習得し、自分と対象とのかかわり方を見つめ、自分の生活をより豊かにすることを期待している。

2 本年度の取り組みの重点

(1) 自己評価活動の重視

本年度は、活動過程において随時ふりかえることを重視して、活動をただ楽しむだけではなく、自分と対象とのかかわり方を見つめながら、自分の考えや判断、行動の質をより高めさせていきたいと考えた。具体的には、毎時間、ふりかえりカードに、「活動のふりかえり」とともに「次時の活動計画」を具体的に記述することにした。

(2) 表現活動の重視

表現活動は、大きな意味でのふりかえりの場と考えることができる。表現することを通して、自分の思いが整理され、考えが明確になり、新たな課題の発見につながることを期待している。本年度の具体的な取り組みとしては、これまで取り入れていなかった「中間発表会」を追究活動の節目として設定することにした。

(3) 異学年交流

本年度の活動は、すべて第3学年と第4学年でともに行っていくことにした。初めて自分タイムを経験する3年生と経験者としての4年生が、互いの立場から意欲的・積極的なかかわりをもととすること、また、そのかかわりの中で、互いの追究活動がより一層広がり、深まることを期待した。

3 学習活動計画とめざす子どもの姿

活動過程	時間	めざす子どもの姿
○オリエンテーション	1	○活動への興味・関心・意欲をもつ。
○テーマの決定・計画	1	○自ら課題を決定する。
○追究活動	6	○活動の見通しを持ち計画を立てる。 ○活動に没頭する。○情報を収集し、処理する。 ○活動をふりかえり、必要に応じて計画を修正する。
○表現活動（中間発表） ・ふりかえり	4	○活動をふりかえり表現する。 ○友達の活動のよさを見とる。 ○次の活動への課題意識を持つ。
○追究活動	4	○活動に没頭する。
☆冬休み	+α	○情報を収集し、処理する。
○表現活動（発表会）	2	○活動をふりかえり、必要に応じて計画を修正する。
○ふりかえり	1	○活動をふりかえり表現する。 ○友達の活動のよさを見とる。 ○次の活動への課題意識を持つ。

4 第3学年の活動をふりかえって

(1) 支援の方針

3年生からはじまる「自分タイム」は、まず、自分自身で興味・関心のある課題からテーマを定めなくてはならない。しかも、途中で変更することなく、何時間も課題を追究する計画も必要になってくる。これらの課題追究の見通しを持つことが難しい3年生にとって、4年生からのアドバイスや前年度の活動の紹介は、大変有意義な支援になった。また、4年生と活動時間を合わせ、機会をとらえてふりかえりの場を共有することにより、活動の見通しを持って、追究を膨らませるように配慮した。さらに、随時、ワークシートを用いてふりかえりの場を設定することで、集中して活動に没頭している姿や活動の質の高まりなどを教師からのコメントを入れていくことで評価していった。

(2) 活動の実際

○調べる課題 {恐竜(化石)、は虫類、昆虫、生き物、石}

最初から細かな計画は立てにくいので、後日変更してもよいことなど柔軟に考えられるように支援していった。調べる手段としては、図鑑を調べたり、インターネットで検索したりすることなど机上の活動が多かったがみんな楽しんで活動していた。課題によっては、石を採取したり、冬越しする生き物を調べたりしている児童も見られた。恐竜を調べる児童は、お互い同じ物にならないように、それぞれテーマを変えながら、協力して活動をしていた。

○作る課題 {編み物、詩、物語、絵本、料理、工作、マンガ}

一人で課題をやり切るように支援者、活動場所、準備物など活動内容も具体的に考えていった。そのため、自分で材料を持ち寄り、それぞれ一人での活動しているものが多かったが、編み物はお互いに難しい所を教え合ったり、情報交換も色々行っていた。家の人に教えてもらうばかりでなく、売店の先生や専科の先生に教えてもらう児童もいた。作品作りを最後まで粘り強く行っていた。

○極める課題 {野球、ソフトボール、サッカー、バスケットボール、バトミントン、読書}

自分の思いが十分生かされるテーマとなるように、明確なめあてを決めた。読書を除き、ほとんど友だちと一緒に活動する課題であった。そのグループの中で色々工夫をしながら練習したり、役割分担を決めている所もあった。また、活動するばかりでなく、本やインターネットを使い様々なことを調べていた。

(3) 表現活動(中間発表、発表会)

子どもの活動に合わせた表現方法を考える場をつくり、活動の仕方やまとめ方などどのように表現したら効果的であるのか適宜支援していった。課題のつくり方や解決方法など追究過程をふりかえり、評価しながら、活動の達成感をみんなで共有するだけでなく、4年生や多くの参観者から、有効な支援を受けられた。

課題	主な表現方法(発表5分、質疑応答2分)
調べる	・本づくり・新聞・クイズ・写真・ノート
作る	・作品の展示・レシピ作り・本づくり・作り方の説明書づくり
極める	・実演・説明書づくり・写真やビデオ・読書感想文

(4) ふりかえり

まだまだ、追究活動が連続して行われにくい現状があるものの、この活動を通して、試行錯誤を繰り返しながらも連続して問題を解決していく力を育てていきたい。また、表現活動していく過程において、学習することの楽しさや成就感を味わうことができ、その発表をふりかえることにより、自分と対象への関わりが深まる場となればと考えている。この積み重ねが、一人学習の仕方を身につけていくことにつながるものと期待している。

5 第4学年の活動をふりかえって

ここでは、子どもたちの追究活動から、人やものとのかかわり方を自ら広げ、深めている姿の一例を紹介したい。

(1) 研究対象とのかかわり方を広げ、深める子どもたち

① 本作り

昨年度の自分タイムで「お話づくり（絵本づくり）」に取り組んだ児童が、本年度は、パソコン（ワープロ機能）を活用して、昨年度の作品を製本化することをテーマとした。これは、昨年度の活動のふりかえりをもとに考え出したテーマである。児童は、学校と家庭のパソコンの両方を使用して、地道な製作活動を継続し、本を完成させた。

② ビーダマン

人気玩具「ビーダマン」の研究に取り組んだ子どもたちがいた。追究活動の初期の段階では、市販のビーダマンでの対戦を楽しむに過ぎない活動であったが、毎時間の活動が単調に繰り返されていることをふりかえり、後半では、玉をより速く正確にとばすことを求めて、自ら身の回りの素材（割り箸、ゴム、他の玩具のパーツなど）を用いて、ビーダマンを改造する活動を楽しんだ。

③ 手話

4年生の国語科の教材に、「点字」を素材とした説明文がある。その教材をもとに、自ら情報を収集して「点字新聞」を作成し、さらに「手話」についての追究活動を「自分タイム」として展開していった児童がいる。彼女は、ただ、手話についての情報を収集するだけではなく、実際に身につける努力を積み重ね、発表会も手話で行った。

④ 新幹線

「新幹線」をテーマにした児童がいた。学校においては、図書室の本とインターネットの活用による資料集の作成・整理が主な活動内容であった。彼は、追究活動の中でより大きく膨らんだ興味・関心を胸に抱きながら、冬季休業中に、新幹線を写真撮影したり、「レールスター」に実際に乗車する体験をした。また、パソコンソフトを使って「レールスター」「700系のぞみ」「500系のぞみ」など、色々な新幹線を描いて来た。「作画するとにより、それぞれの特徴をつかむことができた」と言う。

(2) 異学年児童とのかかわり方を広げ、深める子どもたち

オリエンテーションにおいては、自主的に昨年度の自分タイムの作品を家から持ってきて、うれしそうに3年生に説明する4年生の姿が多く見られた。また、追究活動においては、同じ「野球」をテーマにする3・4年生と一緒にゲームや練習を楽しむ姿、パソコンルームではインターネットの検索方法について3年生に教える4年生の姿、図書室では、一冊の本と一緒に仲良く読み合い、話し合う姿なども見られた。さらに、発表会においては、お互いの発表に興味・関心を示し、研究内容やそのまとめ方などについて、よい点を評価したり、今後の研究についてアドバイスしたりする姿も多く見られた。そして、発表会後のふりかえりカードには、3年生の活動や発表についての肯定的な記述や交流を喜ぶ記述、来年度の活動に生かそうとする記述など、3年生とのかかわりをもとに記述したものが、35名中30名も見られた。

6 おわりに

学力低下が深刻な課題としてクローズアップされる現在、「生き生き」、「目がキラキラ」だけの活動に終わってはならないという指摘がなされるようになった。前節で示したような子どもたちの姿は、「自分タイム」が、表面的な輝きだけの活動ではなく、「自己教育力」「自己評価力」など、学校教育が最終的にめざすべき子ども像（人間像）に迫り得る、質的な深まり・高まりをもたらす活動であることを評価しているように思う。